

日本熱物性学会 2009年第3回役員会報告 (HP版)

日時：平成21年9月19日(土) 13:00~17:00

会場：慶應義塾大学三田キャンパス 東館4階セミナー室

主な議題：

会長挨拶

諸岡会長より御挨拶があった。本日は議題が多いが、たくさんのご意見を頂戴したいとのこと。

1. 前回議事録確認

長坂事務局担当より前回議事録について説明が行われた。また、配布物の確認が行われた。

2. 第30回日本熱物性シンポジウムについて

高橋実行委員長より、第30回日本熱物性シンポジウムの準備状況について説明があった。講演申込数は142件(内学生ベストプレゼンテーション賞対象は47件)、事前参加登録は77件、懇親会参加登録者数は46件であるとのこと。シンポジウム日程に関しては、3日目の新旧役員会の後にセッションが無い様に組みなおした。また、懇親会でベストプレゼンテーション賞を表彰するために、対象セッションが2日目までに終了するように日程を組みなおした旨の説明があった。シンポジウム前日には、市民講座を2件予定しているとのこと。イベントの情報についてメーリングリストとWebサイトを利用して周知することに決定した。また、無線LANを設置し、ネットワーク環境を参加者に利用してもらうことになっている旨の説明があった。

3. 総会に関する事項について

3-1 平成21年名誉員顕彰者

藤井表彰委員長より、平成21年名誉員顕彰者の説明があった。名誉員推薦委員会(会長、副会長2名、幹事)で、候補者の御経歴や御年齢を検討し、棚沢一郎先生ならびに山田悦郎先生を名誉員として推薦したい旨の提案があり、問題なく了承された。また、功労賞推薦委員会(会長、副会長2名、幹事)で、功労賞ならびに貢献賞の候補者の検討を行い、功労賞に八田一郎先生、貢献賞に山田雅彦先生を推薦したい旨の提案があり、問題なく了承された。

3-2 学会賞候補者について

藤井表彰委員長より、平成 21 年熱物性学会賞の説明があった。表彰委員会で厳正に審査した結果、熱物性賞に牧野俊郎先生、論文賞に宮崎康次先生の研究グループ、奨励賞に小島秀和先生を推薦したい旨の提案があり、問題なく了承された。

3-3 第 31 期役員候補者について

長坂事務局担当より、第 31 期役員候補者についての説明があった。九州地区は第 31 回日本熱物性シンポジウム開催地区であるため 3 名の評議員で構成されている。第 31 期日本熱物性学会会長を高橋一郎先生に、副会長を佐藤真奈美先生にお願いすることが問題なく了承された。また、編集委員長については事務局と相談しながら吉田編集委員長に一任することで了承された。表彰委員長については、第 31 期からは牧野先生にお願いすることで内諾を得ているとのこと。第 31 期の評議員ならびに監査についても問題なく了承された。東京事務所担当については学会事務局が東京地区に無い場合に設置されるものであるため、第 31 期東京事務所担当は無くすことで了承された。

3-4 総会資料と進め方

長坂事務局担当より、第 30 期総会資料と進め方について説明があった。第一号議案について簡単に説明があった。会員数の変遷、ならびにシンポジウムの決算収支書について説明があった。第 2 号議案について収支決算書、第 3 号議案について活動計画案について記載した。第 4 号議案に収支予算書、第 5 号議案について役員案について記載し、次回のシンポジウム開催について総会資料に添付した。総会の進行表について資料を添付した。司会・進行を三浦先生にお願いし、会長挨拶を諸岡先生にお願いしているとのこと。総会の進行や受賞者等についてスクリーンに投影することで参加者も分かりやすくなるのではないかという意見があった。

4. 第 31 回日本熱物性シンポジウム準備状況について

高田実行委員長の代理で河野先生より、第 31 回日本伝熱シンポジウム準備状況について説明があった。開催日程は 2010 年 11 月 17 日～19 日に予定しており、前日に 30 周年記念講演会を予定しているとのこと。会場は九州大学伊都キャンパスにある稲盛財団記念館に 80 名程度収容可能な講演室を 3 部屋、循環型社会システム工学研究センターに 1 部屋予定している。また、総会ならびに特別講演会を近隣施設である総合学習プラザを予定しているが、もし使用不可能な場合は稲盛財団記念館の講演室 3 部屋を 1 部屋に拡張して対応するとの説明があった。懇親会については、天神など福岡中心部のホテルを予定しており、シンポジウム会場から懇親会会場まではバスをチャーター予定とのこと。30 周年記念講演会の会場については会場のキャパシティやアクセスなどを考慮し、医学部 100 年講堂の利用についても検討していくことになった。

5. 30周年記念事業について

佐藤春樹活動委員長より、30周年記念事業について説明があった。30周年は創始者がまだ現役であり、30周年記念事業は歴史を残すというスタンスで行うのが原点である旨の説明があった。既に、ホームページリニューアルならびにデジタルアーカイブ化事業については着手しているとのこと。記念号発行については単行本よりも熱物性誌の特集号として発行する予定である。また、第31回日本熱物性シンポジウムの開催時期と同時期に記念シンポジウムを開催する予定である。記念出版については、30周年記念シンポジウムに間に合うように出版したいとのこと。ただし、記念出版は30周年事業の予算に計上しないことになっている。

牧野30周年記念事業実行委員長より、30周年記念号（会誌別冊）の企画案について説明があった。資料編としてこれまでのシンポジウムのデータ（出席者数やOSのテーマ）等を記載することで歴史が分かるような構成になっている。写真があまり無いのでご協力いただきたい旨のお願いがあった。学会の黎明期における苦労話などがあると面白いという意見があった。海外のお世話になった先生について、記念講演会に御越しいただく上でなんらかの形で表彰しても良いのではないかという意見があった。

九州地区が第31回日本熱物性シンポジウムを引き受けた背景には、シンポジウムと30周年記念事業を抱き合わせないという合意があったわけだが、予算等を考慮すると、30周年記念講演をシンポジウム前日に開催し、記念パーティについてはシンポジウムの懇親会と合同で行う方向が望ましく、九州地区と協力しながら今後検討することに決定した。

6. 各種委員会・研究会報告

6-1 編集委員会

吉田編集委員長より、編集委員会の活動報告があった。JSTのアーカイブ化事業について前回の役員会では申請しないという方向で決定したが、その後、JSTの事業が最終年度ということもあり、事後承諾になるがJSTアーカイブ化事業に応募することになったとのこと。30周年事業でアーカイブ化するのには学会の財産として保存するためである旨の説明があった。

6-2 熱物性サービス委員会

長坂事務局担当より、データベースへのアクセス数は伸びているが、コンテンツを読んでいる人は少ない可能性があるため、検討していきたい旨の報告があった。

6-3 活動委員会

佐藤春樹活動委員長より、活動委員会の活動報告があった。ベストプレゼン賞の審査方式について、従来の審査方式で行うことが了承された。審査委員メンバーならびに審査スケジュールについて説明があった。懇親会では、会長名で仮の表彰状を授与すること。

学生には懇親会で表彰式があることをアナウンスしていただき、多くの学生が懇親会に参加するようにしてほしい旨のお願いがあった。

6-4 広報委員会

宮崎広報委員長より、広報委員会の活動報告があった。メーリングリストの運用が減っているのでコンテンツをいただきたいとのこと。

6-5 研究分科会

マイクロ・ナノスケールの熱物性とシステムデザイン

宮崎オーガナイザーより活動報告があった。オーガナイザーとして産総研の竹歳先生にご参加いただいたとのこと。今回から学会員以外から 1000 円徴収することにしたが、第 12 回研究分科会では学会員以外からの参加がゼロだった。しばらく様子を見て研究分科会参加費の導入について検討したいとのこと。現在ハンドブックの作成を行っており、養賢堂には打診している旨の説明があった。研究分科会の会場については、高橋一郎先生に御尽力をいただいた。

低温環境における熱物性の基礎と応用

田中明美オーガナイザーより活動報告があった。北海道大学で第 5 回研究分科会を開催したとのこと。参加者は 16 名で内 6 名が学生だった。当日は北海道大学の学園祭があり、会議室へのアクセスに不便があったが、盛会に終わったとのこと。第 6 回研究分科会はインフルエンザの影響で順延になっているが、11 月中旬には開催する予定であるとのこと。

建物外皮の熱物性とシステムデザイン

吉田オーガナイザーより活動報告があった。資料集のようなものを今年度の予算で作成したいとのこと。会場については、高橋一郎先生に御尽力いただいた。

生活環境懇話会

諸岡オーガナイザーより活動報告があった。山田純先生を主査として生活懇話会Ⅱを立ち上げた旨の説明があった。昨年までホームページに掲載していた資料等を製本し、200 部を作成した。シンポジウムの事務局受付で実費程度の価格で販売するとのこと。

佐藤春樹活動委員長より、研究分科会活動ルール作成のための意見を頂戴したいとのお願いがあった。

7. 共催・協賛関係

長坂事務局担当より、共催・協賛関係の報告があった。

8. 会員異動

長坂事務局担当より、会員異動の報告があった。

9. その他

長坂事務局担当より、次回の新・旧役員顔合わせの日程についての確認があった。是非参加いただきたいとのこと。「新・旧役員顔合わせ」については「新・元役員顔合わせ」という文言に変更することが決まった。

以上